

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 18 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671900326
法人名	医療法人 村山内科
事業所名	グループホーム愛
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1792番地1 (電話) 0883-72-5789

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 11 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 1 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤: 14人、非常勤: 2人、常勤換算: 2階 6.7人 3階 6.61人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階 部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 10,000円、その他: 実費	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 690 円			

## (4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	78 歳	最高	102 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	村山内科、徳善歯科クリニック、大和外科、県立三好病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は商店街が並ぶ町の中心部にあり、入居者が散歩したり買い物を楽しんだりできる環境にある。家族や地域の人たちと馴染みの関係を継続することができるよう積極的に取り組み、来訪しやすい雰囲気がある。ケアについても院長自らが先頭に立って「認知症ケアを科学しよう」という方針のもと、講演会や研修会に参加し、サービスの質の向上に熱心に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解して全員で自己評価を作成し、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催している。構成メンバーは家族や地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、民生委員、院長、事務長、職員によって構成されている。会議ではボランティアの参入や災害時の協力依頼、ホームの実状を報告、地域行事や年間の振り返りを行いながらの意見交換などを行っている。内容は家族会に報告し、また全職員に回覧して周知されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	家族からの意見等は、意見箱を設置したり家族会などで気軽に話してもらえるよう雰囲気づくりに留意するなどして把握している。また家族の来訪時に話された内容は詳細に文章化し、その都度、施設長や管理者に報告して対応・解決を図り、結果も記録に残している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
	町内会や自主防災組織に加入し、商店街の四季の飾り付けに参加するなどしている。また地域の懇談会や会合に事業所を利用してもらったり、婦人会や幼稚園児の来訪が定期的にあるなど相互に協力し合い、地域と密着した交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、全職員が理解するとともに、地域との関係づくりを密にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員がいつでも見られる場所に掲示し、常に意識しながら利用者に関わっている。部会等でも唱和し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や自主防災組織に加入し、商店街の四季の飾り付けに参加するなどしている。また地域の懇談会や会合に事業所を利用してもらったり、婦人会や幼稚園児の来訪が定期的にあるなど相互に協力し合い、地域と密着した交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解して全員で自己評価を作成し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。構成メンバーは家族や地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、民生委員、院長、事務長、職員によって構成されている。会議ではボランティアの参入や災害時の協力依頼、ホームの実状を報告、地域行事や年間の振り返りを行いながらの意見交換などを行っている。内容は家族会に報告し、また全職員に回覧して周知されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症ケアについての講習を市町村職員にも聞いてもらい、地域全体で取り組んでいけるよう相談するなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の生活の様子や情報を報告している。また家族会を通じて個々に日頃の暮らしぶりや行事に参加したときの様子などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等は、意見箱を設置したり家族会などで気軽に話してもらえよう雰囲気づくりに留意するなどして把握している。また家族の来訪時に話された内容は詳細に文章化し、その都度、管理者や施設長に報告して対応・解決を図り、結果も記録に残している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしている。やむを得ない場合は引き継ぎ期間を十分にとり、スムーズに業務に入るとともに馴染みの関係を徐々に築き、利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いて実践的な研修を行うなど、全職員で認知症ケアに取り組んでいる。法人内・外の研修にも積極的に参加し、毎月の職員部会で報告し、記録は全職員に回覧されている。また様々な認知症ケアの実践を試み、症状等の改善に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会に参加するなどして情報交換したり、他の同業者の取り組み状況や意見を参考にすることでサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に見学してもらったり、他の利用者と日中一緒に過ごしてもらうなどし、本人が納得したうえで安心し、徐々に馴染みながら利用を開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から季節ごとの行事や風習を教わったり、「支援し、される関係」ではなく穏やかに日々が送れるよう家庭的な場面づくりに留意するなど、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め、生活の中で利用者の希望や意向を詳細に把握できるよう努めている。意向の把握が困難な場合は、家族に聞いたり、本人の立場に立った検討をするなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際は、利用者にも会議に参加してもらって希望を聞き、関係者間で必要な支援を見極めながら作成している。計画書には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直し、また利用者の状態変化があった場合には、家族に報告して相談し、現状に即して新たに作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、家族と相談しながら受診に付き添うなど柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけに受診できるよう支援している。歯科診療は訪問診療を利用するなど、適切な医療が受けられるよう医療機関と連携しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については利用者や家族、医師などと話し合い、確認書を交わして方針を共有している。また利用者の状態に変化があった場合には、その都度、医師や看護師が説明を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や口腔ケアへの言葉かけは他の利用者に気付かれないようさりげなく行うなど、全職員で徹底したプライバシー確保に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちや意向などを尊重し、散歩や商店街への買い物に出かけたり、美容院に行くなど個別性のある過ごし方が支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好やその日食べたいものを日頃の会話から把握し、できるだけ応じている。また食事は庭先の畑でとれた野菜を使った一品を追加したり、準備や後片づけを利用者と一緒に行うなどし、共に楽しんでいく。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間にこだわらず、利用者の希望に合わせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛りつけや洗濯物たたみ、縫い物などの役割をもってもらい、利用者一人ひとりの力量や生活歴を活かして生活を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への買い物や散歩、馴染みの店に出かけるなど、車椅子やシルバーカーを使い、できるだけ多くの方が外出できるよう取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・避難訓練は年2回、開催している。防災マニュアルや避難経路図、災害時の連絡網等を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医院の栄養士から指導を受け、利用者一人ひとりの状態や習慣に応じた食事・水分摂取量の確保、適切な栄養バランスとなるよう支援している。食事・水分摂取量は個別に毎回、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から台所が見え、調理する姿や音、香りなどが心地よく五感を刺激している。また七夕の団子や菖蒲湯、柚子湯など季節ごとの行事や風習を取り入れた支援を行っている。昼食後には窓際の日だまりで、2、3人ごとに集まり、会話を楽しみながらくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には季節の花を飾り付けたり、馴染みのダンスや小物入れなどを持ち込むなどし、楽しみながら居心地よく過ごせる雰囲気づくりを支援している。		